

# 総合型地域スポーツクラブの効果に関する研究

藤田 雅文\*, 吉田 幸人\*\*

(キーワード：総合型地域スポーツクラブ, 効果)

## I 緒言

文部科学省は、2000(平成12)年9月に「スポーツ振興基本計画」<sup>1)</sup>を策定し、生涯スポーツ社会の実現のため、2010年までに、全国の各市区町村において少なくともひとつは総合型地域スポーツクラブ(以下SCと略する)を育成すると定めた。1995(平成7)年から始められた文部省のモデル事業や、策定後に日本体育協会に委託された創設支援事業などの結果、2009(平成21)年7月1日現在<sup>2)</sup>で、創設準備中のSCも含めて、1,798市区町村で2,905クラブが育成されている。総数では目標を達成したが、その内の831クラブ(28.6%)は、兵庫県内のSCであり、都道府県間の格差が大きいのが現状である。また、SCには、地域の中に新たな世代間の交流を生起させ、地域住民の健康や体力の保持増進、住民意識や連帯感の高揚、地域教育力の再生、学校と地域の連携など、地域コミュニティ再生の成果が期待されている。これに対して、文部科学省の平成21年度実態調査結果では、「世代を超えた交流が生まれた」59.8%、「地域住民のスポーツ参加機会が増えた」59.0%、「元気な高齢者が増えた」46.9%などの効果を示している。しかし、これらはSC代表者の評価であり、SC会員による評価ではない。会員を対象としたSCの効果に関する先行研究<sup>3)4)</sup>は散見されるが、それらは単一又は限定された地域のSCであり、今後も追的に広範囲の地域で実施するべきであると考えられる。そこで、本研究では、徳島県と香川県で活動しているSCの会員を対象とした質問紙調査によって、上記のSCの効果の実態とその要因について検討し、今後のSCのあり方を探求するための基礎資料を得ることを目的とした。

## II 方法

### 1. 効果の測定項目

うつくしま広域センター(2006)は、福島県内の設立後3年以上経過したSC(10クラブ)の会員と、その地域に住む住民(非会員)を対象に、SCによる社会的効果に関する意識調査を実施し、報告書<sup>5)</sup>を発行している。

本研究では、その調査項目を参考にして、「交友範囲」、「健康状態」、「スポーツ技能」、「スポーツへの関心」、「地域社会活動」に関する5つの項目について調査した。また、各設問には、「とても当てはまる」「少し当てはまる」「あまり当てはまらない」「全く当てはまらない」の4件法で回答してもらった。

### 2. 調査の概要

有効回答数：徳島県内のSC、3クラブの成人会員、計250名

香川県内のSC、5クラブの成人会員、計261名

期間：2009年5月～10月

方法：クラブを訪問し、活動している会員に調査用紙を配って回収する集合法と、クラブマネージャー等に依頼して、後日回収する留置法を併用した。

### 3. 統計処理

「交友範囲」、「健康状態」、「スポーツ技能」、「スポーツへの関心」、「地域社会活動」に関する5つの項目の回答の度数整理をし、肯定的回答と否定的回答の割合の比率の差の検定を行い、さらに、性、年齢、活動年数、活動種目数の区分によって、効果の感受の程度に差があるかどうかを確かめるために $\chi^2$ 検定を行った。データの

\*鳴門教育大学生活・健康系コース(保健体育)

\*\*四国職業能力開発大学校非常勤講師

処理には、Microsoft Excel 2007を用いた。

### Ⅲ 結果と考察

#### 1. 回答者の属性（性・年齢）

回答者の性・年齢の分布を示したのが表1である（N.A. 除く）。女性が68.2%を占め、60歳代が39.2%で、50～69歳の女性が43.1%という、実年層の女性に偏ったサンプルである。

表1. 回答者の属性（性・年齢）

	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上	計
男	19	15	12	19	51	42	158
女	24	47	25	70	144	29	339

#### 2. SCの効果

「交友範囲（スポーツをする仲間がふえた）」、「健康状態（全般的に体調がよくなった）」、「スポーツ技能（スポーツの技能や記録が向上した）」、「スポーツへの関心（スポーツ全般への関心が高まった）」、「地域社会活動（町内会・自治会への出席が増えた）」に対する回答の分布（%）を示したのが表2である（N.A. 除く）。

肯定的に回答した会員の割合が最も高いのは、「交友範囲」であり、最も低いのは「地域社会活動」であった。比率の差の検定の結果、「交友範囲（85.8%）」＝「健康状態（84.3%）」＞\*\*\*「スポーツ技能（68.7%）」＝「スポーツへの関心（68.2%）」＞\*\*\*「地域社会活動（26.9%）」という相対的な位置にあることが認められ、「交友範囲」「健康状態」「スポーツ技能」、「スポーツへの関心」の4項目の効果を感じている会員は多く（ $p < .001$ ）、「地域社会活動」の効果を感じている会員は少ない（ $p < .001$ ）ことが判明した。

表2. SCの効果

	とても	少し	あまり	全く	N
交友範囲	37.5	48.3	7.7	6.5	493
健康状態	29.6	54.7	11.2	4.5	490
スポーツ技能	15.4	53.3	24.2	7.2	475
スポーツへの関心	19.0	49.2	24.5	7.4	474
地域社会活動	6.3	20.6	38.7	34.4	442

#### 3. SCの効果の要因と内容

##### (1) 交友範囲の拡大

「交友範囲の拡大」と「性」「年齢」「活動年数」「多項目活動」との関連性を $\chi^2$ 検定した結果、性別の差は認められなかったが、39歳以下の会員に比べて40歳以上の会員の方が効果をより多く（ $p < .01$ ）感じていること（図1，表3）、活動年数が3年未満の会員に比べて3年以上の会員の方が効果をより多く（ $p < .01$ ）感じていること（図2，表4）、多項目の活動をしている会員の方が効果をより多く（ $p < .001$ ）感じていること（表5）が明らかとなった。

その内容は、「自分と違う年齢層・世代の人達との交流が広がった（81.7%）」「自分の住む地域以外の人達との交流が広がった（66.7%）」「自分と違う職業や所属の人達との交流が広がった（66.3%）」「地域の高齢者と交流する機会が増えた（48.1%）」「顔と名前のわかる子供が増えた（34.4%）」「地域の障害者と交流する機会が増えた（20.1%）」であり、多世代，多地域，多職種の人々との交流が拡大していることが判った。

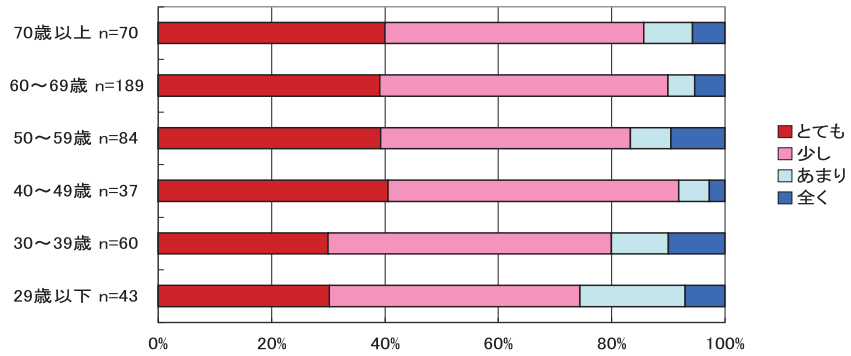


図1. 交友範囲の拡大 (年齢別比較)

表3. 交友範囲の拡大と年齢の関係

	スポーツをする仲間が増えた		計
	当てはまる	当てはまらない	
40歳以上	334 (87.9)	46 (12.1)	380
39歳以下	80 (77.7)	23 (22.3)	103
計	414	69	483

$\chi^2=6.9189$   $p<.01$

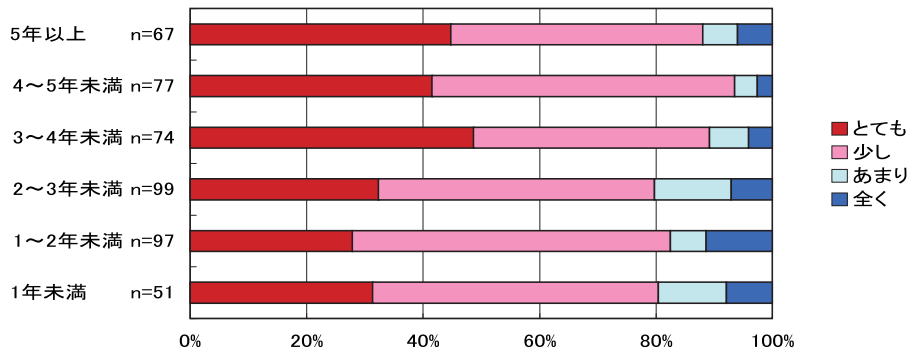


図2. 交友範囲の拡大 (活動年数別比較)

表4. 交友範囲の拡大と活動年数の関係

	スポーツをする仲間が増えた		計
	当てはまる	当てはまらない	
3年以上	197 (90.4)	21 (9.6)	218
3年未満	200 (81.0)	47 (19.0)	247
計	397	68	465

$\chi^2=8.1871$   $p<.01$

表5. 交友範囲の拡大と多項目活動の関係

		スポーツをする仲間が増えた		計
		当てはまる	当てはまらない	
多項目活動	当てはまる	205 (92.8)	16 (7.2)	221
	当てはまらない	191 (78.6)	52 (21.4)	243
計		396	68	464

$\chi^2=18.5524$   $p<.001$

(2) 健康状態の改善

「健康状態の改善」については、性別、活動年数別には差が認められず、40歳以上の会員、及び多種目の活動をしている会員の方が、効果をより多く ( $p < .001$ ) 感受していることが明らかとなった (図3, 表6・7)。

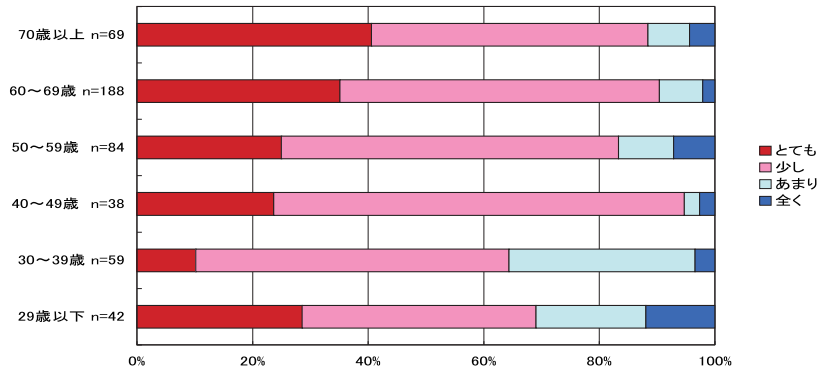


図3. 健康状態の改善 (年齢別比較)

表6. 健康状態の改善と年齢の関係

	体調がよくなった		計
	当てはまる	当てはまらない	
40歳以上	336 (88.9)	42 (11.1)	378
39歳以下	77 (68.8)	35 (31.3)	112
計	413	77	490

$\chi^2=25.1069 \quad p < .001$

表7. 健康状態の改善と多種目活動の関係

		体調が良くなった		計
		当てはまる	当てはまらない	
多種目活動	当てはまる	204 (90.3)	22 (9.7)	226
	当てはまらない	189 (78.1)	53 (21.9)	242
計		393	75	468

$\chi^2=12.8539 \quad p < .001$

その内容は、「足腰が丈夫になった (73.9%)」「ぐっすり眠れるようになった (70.8%)」「風邪をひかなくなった (65.5%)」「動悸・息切れがしなくなった (64.2%)」「通院回数が少なくなった (46.7%)」であり、睡眠の改善によるプラス効果、さらには介護予防や医療費削減への効果が推察される結果であった。

(3) スポーツ技能の向上

「スポーツ技能の向上」については、男性会員 (表8, ( $p < .05$ )), 3年以上活動している会員 ( $p < .001$ ), 多種目の活動をしている会員 ( $p < .001$ )の方が効果をより多く感受しており、40歳代の会員が最も多く (85.3%) 感受していることが明らかとなった (図4・5, 表8・9・10)。

表8. スポーツ技能の向上と性別の関係

	スポーツの技能や記録が向上した		計
	当てはまる	当てはまらない	
男性	120 (76.9)	36 (23.1)	156
女性	205 (65.3)	109 (34.7)	314
計	325	145	465

$\chi^2=6.6152 \quad p < .05$

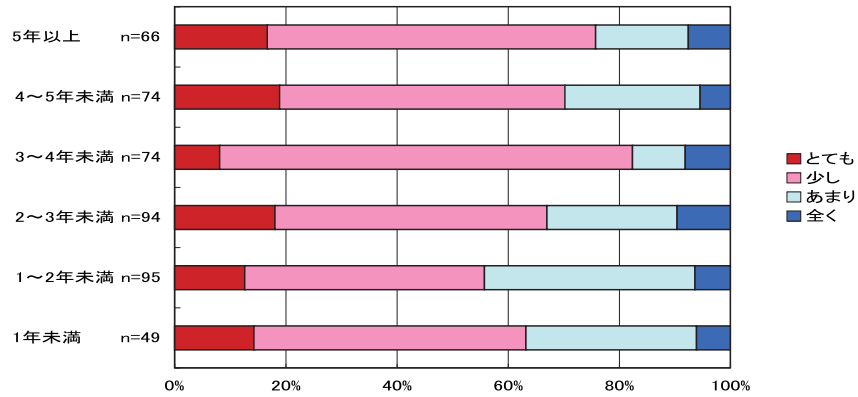


図4. スポーツ技能の向上（活動年数別比較）

表9. スポーツ技能の向上と活動年数の関係

	スポーツの技能や記録が向上した		計
	当てはまる	当てはまらない	
3年以上	163 (76.2)	51 (23.8)	214
3年未満	147 (61.8)	91 (38.2)	238
計	310	142	490

$\chi^2=10.8497$   $p<.001$

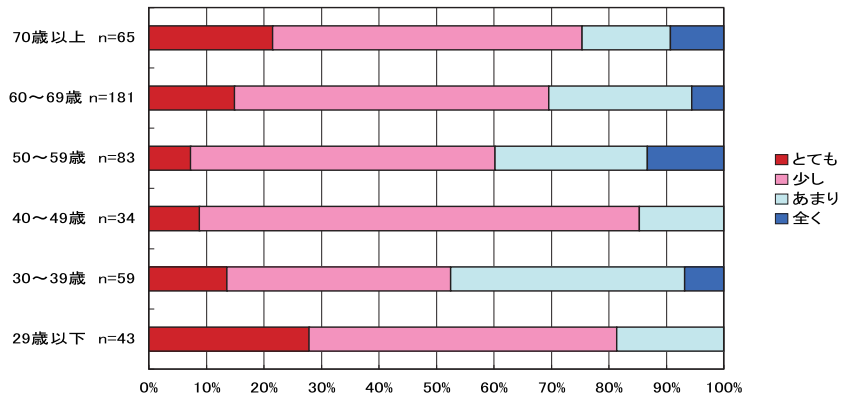


図5. スポーツ技能の向上（年齢別比較）

表10. スポーツ技能の向上と多種目活動の関係

		スポーツの技能や記録が向上した		計
		当てはまる	当てはまらない	
多種目活動	当てはまる	186 (83.4)	37 (16.6)	223
	当てはまらない	130 (53.7)	112 (46.3)	242
計		316	149	465

$\chi^2=46.9778$   $p<.001$

#### (4) スポーツへの関心の高まり

「スポーツへの関心の高まり」については、性別の差は認められず、活動年数が多くなる毎に肯定回答の割合が漸増しており ( $r=0.852$ ,  $p<.05$ ), 40歳代の会員が最も多く (83.8%) 感受しており, 多種目の活動をしている会員の方が効果をより多く ( $p<.001$ ) 感受していることが明らかとなった。「スポーツへの関心の高まり」による, スポーツ行動の変容は, 「テレビでスポーツを見ることが多くなった (54.3%)」「地域スポーツ行事への参加が増えた (41.0%)」「試合会場でスポーツ観戦をすることが多くなった (34.2%)」, 「スポーツ関係のポ

ランティアに参加するようになった (29.7%)」であり、スポーツを観戦する・支える行動への変容は少ないことが判った (図6・7, 表11)。

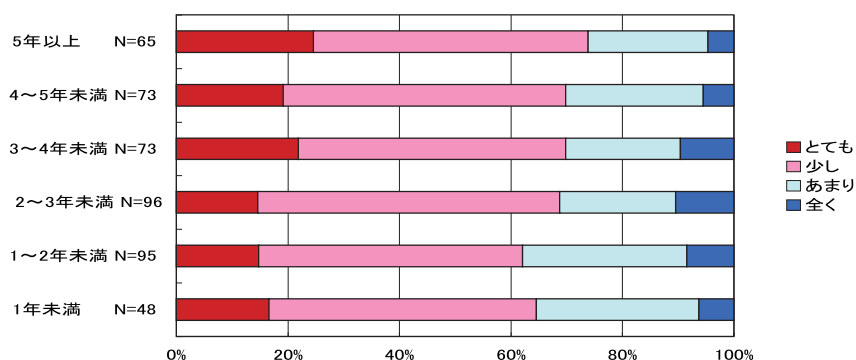


図6. スポーツへの関心の高まり (活動年数別比較)

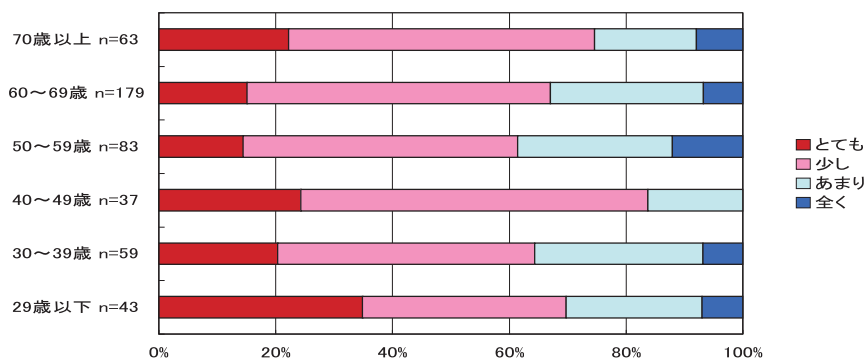


図7. スポーツへの関心の高まり (年齢別比較)

表11. スポーツへの関心の高まりと多種目活動の関係

		スポーツ全般への関心が高まった		計
		当てはまる	当てはまらない	
多種目活動	当てはまる	208 (93.3)	15 (6.7)	223
	当てはまらない	107 (44.2)	135 (55.8)	242
計		315	150	465

$$\chi^2=127.8212 \quad p<.001$$

#### (5) 地域社会活動への参加の増加

「地域社会活動への参加の増加」については、男性会員の方がより多く ( $p<.05$ ) 感受していること、70歳以上の会員が最も多く (48.4%) 感受していること、活動年数が多くなる毎に肯定回答の割合が漸増していること ( $r=0.943$ ,  $p<.01$ )、多種目の活動をしている会員の方が効果をより多く ( $p<.001$ ) 感受していることが明らかとなった。また、地域での居住年数との関係を分析した結果、60年未満の住民 (24.1%) に比べて、60年以上の住民 (53.3%) の方がより多く ( $p<.001$ ) 感受していることが判った (図8・9・10, 表12・13・14)。したがって、SCの活動を通じた地域社会活動への参加の増加の効果は、その地域で永年に渡って住んでいる高齢者には現れていると言える。

「町内会・自治会」以外の地域社会活動の内容では、「祭礼・盆踊りなど祭典レク行事への参加が増えた (29.5%)」「廃品回収・清掃など奉仕活動への参加が増えた (25.9%)」「青少年の健全育成事業への参加が増えた (20.8%)」であり、やはり、社会参加の効果は低いことが確かめられた。

表12. 地域社会活動への参加の増加と性別の関係

	町内会・自治会への出席が増えた		計
	当てはまる	当てはまらない	
男性	48 (34.5)	91 (65.5)	139
女性	71 (23.8)	227 (76.2)	298
計	119	318	437

$\chi^2=5.4836$   $p<.05$

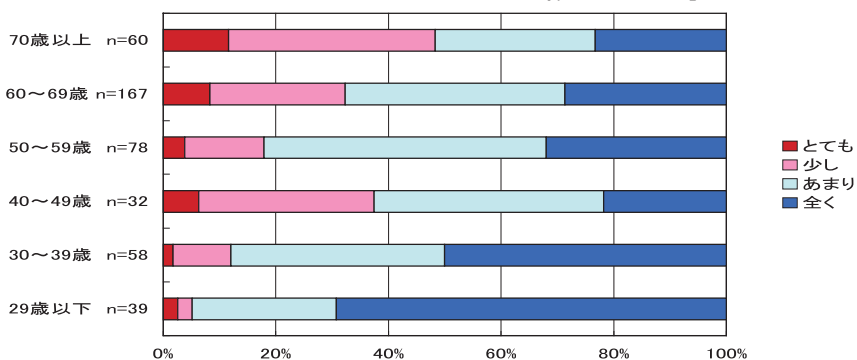


図8. 地域社会活動への参加の増加 (年齢別比較)

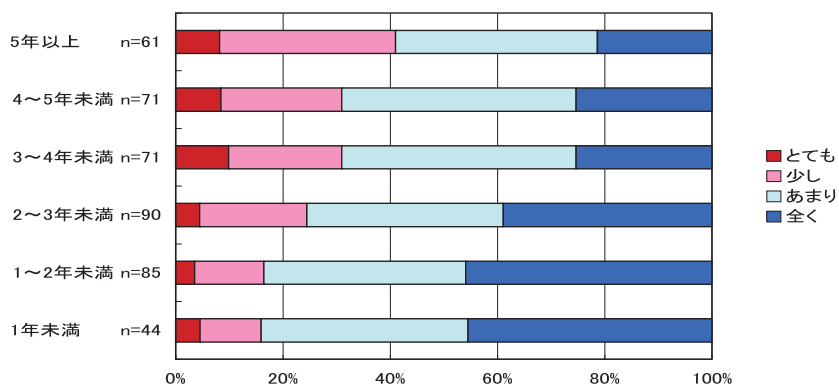


図9. 地域社会活動への参加の増加 (活動年数別比較)

表13. 地域社会活動への参加の増加と多項目活動の関係

	町内会・自治会への出席が増えた		計	
	当てはまる	当てはまらない		
多項目活動	当てはまる	71 (35.5)	129 (64.5)	200
	当てはまらない	39 (17.2)	188 (82.8)	227
計	110	317	427	

$\chi^2=18.6575$   $p<.001$

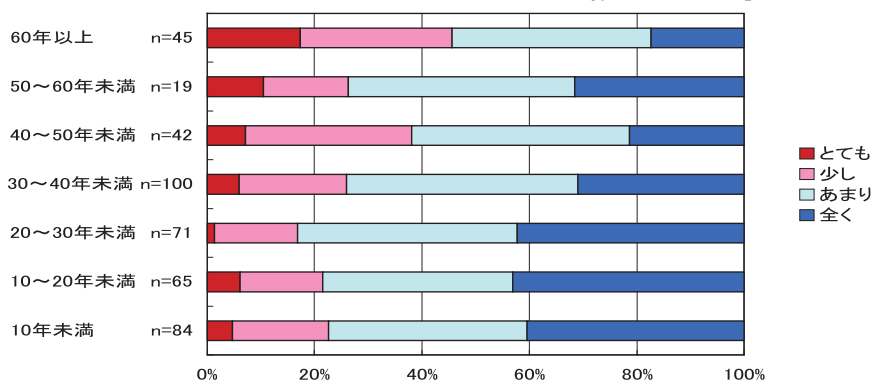


図10. 地域社会活動への参加の増加 (居住年数別比較)

表14. 地域社会活動への参加の増加と居住年数の関係

	町内会・自治会への出席が増えた		計
	当てはまる	当てはまらない	
60年以上	24 (53.3)	21 (46.7)	45
60年未満	92 (24.1)	289 (75.9)	381
計	116	310	426

$$\chi^2=5.4836 \quad p<.05$$

#### 4. 効果の高いSCの概要

本研究の対象である8つのSCの中で、効果を感じている会員の割合が最も多かったのは、Fクラブであった。FクラブのあるK町は、平成17年に高松市と合併し、Fクラブは、町のスポーツセンターとして計画されていたK中学校体育館（メイン&サブアリーナ・管理室・会議室・更衣室・身障者用トイレ・スポーツ漫画ラウンジ等を有する）を拠点にして、平成18年から本格的に活動を開始したクラブである。会員数389人（平成21年度現在）の小規模なクラブであるが、15種目の定期活動の他、イベントとして、スプリングウォーク、サマーキャンプ、スキーツアー、ソフトボール大会、パドルテニス大会、テニス大会をオープン参加で実施し、地域住民の好評を得ている。また、K地区コミュニティ協議会の内部組織として位置づけられ、会員は、ボンフェスティバル、K小学校区町民運動会のスタッフとして貢献しており、高松クリーンデーに体育館周辺の美化活動も行っている。

## IV 総括

本研究は、SCの効果を検証することを目的に、徳島県と香川県に設立されている8つのSCの成人会員511名を対象とした質問紙調査の回答を分析した。結果の概要は、以下のとおりである。

1. 「交友範囲の拡大」「健康状態の改善」「スポーツ技能の向上」、「スポーツへの関心の高まり」の効果を感じている会員は多いが、「地域社会活動への参加の増加」の効果を感じている会員は少ない。
2. 「交友範囲の拡大」の効果については、性別の差はなく、40歳以上の会員、活動年数が3年以上の会員、及び多種目の活動をしている会員が効果をより多く感受している。
3. 「健康状態の改善」の効果については、性別、活動年数別の差はなく、40歳以上の会員、及び多種目の活動をしている会員が効果をより多く感受している。
4. 「スポーツ技能の向上」の効果については、男性会員、活動年数が3年以上の会員、及び多種目の活動をしている会員が効果をより多く感受しており、40歳代の会員が最も多く感受している。
5. 「スポーツへの関心の高まり」の効果については、性別の差はなく、40歳代の会員が最も多く感受しており、活動年数と相関関係があり、多種目の活動をしている会員が効果をより多く感受している。
6. 「地域社会活動への参加の増加」の効果については、男性会員、及び多種目の活動をしている会員がより多く感受しており、活動年数と相関関係があり、70歳以上の会員が最も多く感受している。また、地域での居住年数が60年以上の会員がより多く感受している。

本研究の結果、SCで多種目の活動を3年以上継続している、中・高年の会員が、様々な効果をより強く感受していることが明らかにできた。しかし、「地域社会活動への参加の増加」の効果を感じている会員は少ないことも明らかになった。SCには「地域社会の活性化や再生」も期待されているため、今後、SCには、スポーツ事業を中核にしつつ、スポーツを媒介とした地域活性化事業も展開して行くことが望まれる。

## 文献

- 1) 文部科学省、「スポーツ振興基本計画」、2000  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/sports/plan/06031014.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/plan/06031014.htm)
- 2) 文部科学省、「平成21年度総合型地域スポーツクラブ育成状況調査」参考調査資料、2009  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/sports/club/1246863.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/club/1246863.htm)



- 3) 熊谷賢哉, 総合型地域スポーツクラブへの参加が地域住民の健康に及ぼす影響について, 長崎国際大学論叢 6, 2006, 9-16
- 4) 佐藤充宏, 近藤光男, 香山卓也, 佐藤信二, 総合型地域スポーツクラブにおける健康づくり事業導入の効果計測に関する研究, 地域学研究 38(2), 2008, 527-539
- 5) 黒須充, 「総合型地域スポーツクラブの社会的効果に関する調査報告書」, うつくしま広域スポーツセンター, 2006

# A Study on the Effect of Comprehensive Community Sports Clubs

FUJITA Masafumi\* and YOSHIDA Yukito\*\*

(Keywords : comprehensive community sports clubs, effects)

The purpose of this study was to investigate the effect of comprehensive community sports clubs. The subjects were 511 members of 8 comprehensive community sports clubs in Tokushima prefecture and Kagawa prefecture. The investigations were performed from May to October in 2009. The main results of this study were as follows.

- 1) 85.8% of the members of comprehensive community sports clubs recognized that the friend's number increased.
- 2) 84.3% of them recognized that the health was improved.
- 3) 68.7% of them recognized that the sport skill was improved.
- 4) 68.2% of them recognized that the interest about sports was increased.
- 5) 26.9% of them recognized that the number of times of participation in activities for the good of the local community was increased.
- 6) The degree of recognition of the effect was related to their age, the number of years of membership, and the number of playing events. The members who were 40 years and over, had continuous exercise for 3 years and over, were playing more than one event, recognized a deal of effect.

---

\*Course of Health and Physical Education, Naruto University of Education

\*\*Shikoku Polytechnic College (part-time lecturer)